

令和元年度 発音指導について

○発音の誤りとは

話し言葉のある特定の音が正しく発音できず、習慣化している状態

○発音の発達とは

音が出始めてから完成するまでの間、正しい発音が少しずつ使われ始め、徐々に確実にしていく。
(初めからできるわけではない。個人差も大きい。)

○誤りの主なもの

・音の置換（おきかえ）

他の音に置き換わっている

か行音→た行音 が行音→だ行音になる場合

めがね→め^だね ケーキ→ち^えーち

がっこう→^だっ^どう げんき→^じえん^ち

さ行音→た行音 ざ行音→だ行音になる場合

さかな→^たかな せんせい→^てん^てい いきました→いきま^ちた

かぜ→か^で ぞう→^どう

・側音化構音（そくおんかこうおん）

発音するとき、舌が横に引かれ、息が側方から出るために、こもったような音になっている。

「い」の段（「い、き、し、ち、に、ひ、み、り」関連する濁音、拗音も同様）

「け、げ」「さ行音」「ざ行音」などに起こりやすい。

・口蓋化構音

発音するとき、舌に力が入り、中央部が盛り上がるため、すっきりしない音になっている。

「さ行音」「ざ行音」「た行音」「だ行音」「な行音」「ら行音」などに起こりやすい。

○子どもたちの声

名前の中にあるので、いつも聞き返されてしまう。

音読のとき、読みづらい。

かけ算九九が言いにくい。 など

○学習のねらい

正しい発音ができるようにし、コミュニケーション力を高めて、よりよい学校生活を送れるようにする。

○学習の進め方

- ・一人ひとりの課題に合わせて、個別学習を行う。
- ・系統的に、スモールステップで進める。(ゆっくりでも、確実に、丁寧に取り組む。)
- ・保護者の方の同席を得て進める。環境調整、学習目標や学習内容、進め方、家庭学習について、共通理解を図りながら行う。
- ・必要に応じて、専門機関と連携する。

○系統的な発音の学習（「し」の学習の場合）

